

18	豊田	猿投台中学校	ニシノ アユミ 氏名 西野 亜由美
分科会番号	特	分科会名	「特別の教科 道徳」特別分科会

研究主題

ウェルビーイング実現に向けて、主体的に考えを深める生徒の育成

— 1年 仲間と関わり目的意識をもち探求する単元型の授業実践を通して —

1 主題設定の理由

入学式で生徒に「3年間で心を成長させよう」と声をかけた。中学校の3年間は楽しいばかりではなく、思うようにいかないことに直面し、葛藤しながら、大きく成長していく時期である。そうした生徒たちの心の揺れに寄り添い、様々な教育活動を通して支援していきたい、生徒の心に届く道徳の授業をしたいと考え、本研究に取り組むにいった。

本校は隣接する小学校から大部分の生徒が入学してくるため、中学校入学当初から生徒同士が気心の知れた仲のよい集団を形成している。本学級の生徒も心優しく、互いを認め合う温かい人間関係が築かれている。しかしその反面、変わらない人間関係の中で安心して過ごせるがゆえに、自己表現が控えめであっても受け入れられやすく、主体性が十分に磨かれないという課題が見られる。そのため、目的意識をもち、主体的に探求できる生徒の育成を目指したいと考えた。

本研究の主題である「ウェルビーイング (Well-being)」とは、「よりよく生きること」や「よい状態」を意味する。しかし、ウェルビーイングは他者から与えられるものではなく、一人一人が試行錯誤を重ねながら主体的に見いだしていくものである。そこで、道徳科の授業において仲間との対話を通して多面的・多角的に思考を広げ、深めることは、よりよい生き方についての考えを豊かにし、ウェルビーイングの実現につながると考えた。また生徒が目的意識をもって学習に取り組めるよう単元を設定すれば、主体的に道徳的価値の探求ができるだろうと考えた。そのために、道徳科の授業を学級活動や行事と絡めて単元を構成した。さらに単元を貫くテーマを設定することで、学びの連続性や深まりが生まれ、よりよく生きるための道徳性を培えると期待した。

以上のことから、研究主題を「ウェルビーイング実現に向けて、主体的に考えを深める生徒の育成」と設定し、成果と課題について考察することにした。

2 研究の内容

(1) めざす生徒像

- ・ 道徳的価値を主体的に捉え、多面的・多角的に探求することができる生徒
- ・ 仲間と関わりながら、よりよい生き方について自分の考えを深められる生徒

(2) 研究の仮説と方法

仮説1 学校行事とつながるテーマをたてて単元を構成することで、生徒自身が目的意識をもち、道徳的事象を自分事として捉え、道徳的価値の理解を深めることができるだろう。

手立て1-① 学校行事とつながる単元計画

生徒が主体的に課題に取り組むためには、生徒自身の目的意識が何より大切であると考えた。そのため、合唱コンクールや職場体験学習などの取組をどのようなものにしたいか考える時間を設ける。生徒が掲げた目標を達成するために必要な道徳的価値を扱う授業の単元を計画し、多面的・多角的に、単元を貫くテーマにせまれるように複数時間で道徳を展開する。

手立て1-② 振り返りシートの工夫と、振り返りを生かした導入の工夫

生徒が考えを深めることができるように、複数時間の授業のつながりを意識させることが大切であると考えた。そのために、1枚に複数時間の振り返りを書き込める振り返りシートを準備し、前時の振り返りから本時の授業を始めるように導入を工夫する。

仮説2 主題を自分事として捉え、話し合い活動を通して多角的・多面的に自他の考えを見つめることで、仲間とともによりよく生きるための考えを深めることができるだろう。

手立て2-① 登場人物の心情にせまる話し合いの工夫

主人公の心情や物語を自分事として捉え、主体的に学習に取り組むために、一人の生徒が主人公になりきるロールプレイ（ホットシーティング）を行い、他の生徒からの質問に答えていくことで、「自分だったら」や「主人公だったら」と視点を切り替え、対話する場面を設定する。

手立て2-② 自他の考えを比較するための思考ツールの活用

自他の意見を整理したり、立場によって見え方が異なる事象について整理したりしながら対話するために、小グループでの話し合いや全体で話し合う場面で思考ツールを用いる。

(3) 抽出生徒について

	生徒の実態	めざす生徒像
生徒A	文章で表現することは得意であるが、発言はほとんどなく、考えを周りに発信していく積極性に欠ける面がある。友人関係も狭く、常に同じ友人と少人数で過ごす様子が見られる。優しく、周りの生徒を尊重し友達を大切にする姿が見られる。	仲間との対話を通して、意見を発信することの良さに気づき、自信をもって自分の考えを表現できるようになってほしい。仲間と関わる力や発信する力を伸ばし、よりよく生きるための道徳性を深められるようにしたい。
生徒B	自分の中でやりたいことがはっきりしていて、自分の意見を周りに発信する力がある。一方で自分の意見に固執してしまい、周りの意見を認められない部分がある。	仲間と対話することで、様々な立場や思いをもつ人がいることに気づき、自分の考えを深められるようにしたい。

(4) 単元計画

自己の成長を見つめる	単元① 入学後から体育祭 単元を貫くテーマ					
	自分の可能性を伸ばすにはどうすればいいのだろう					
		教科	教材名	内容項目	主題名	授業のねらい
	第1時	道徳科	32 オアシスの老人	A - (3) 向上心、個性の伸長	自分を見つめる	自分が成長していくためにはどのような心を持ち合わせていることが大切か考える。
	第2時	道徳科	1 サッカーの漫画を描きたい	A - (4) 希望と勇気、克己と強い意志	困難を乗り越える力	困難にぶち当たったときどんな気持ちが大切になるか考える。
	第3時	道徳科	7 葉っぱ切り絵で見た道	A - (3) 向上心、個性の伸長	自分らしさ	困難にぶち当たったとき、別の道を考える、柔軟さを感じる。
	第4時	道徳科	31 裏庭のできごと	A - (1) 自主、自律、自由と責任	誠実な生き方	誠実に生きることの大事さが、自分を成長させることにつながるを知る。
	第5時	学級活動	3年間の目標を立てよう			これまでの学びをふまえて、3年間の目標を立てる。

集団と自己・社会との関わりを見つめる	単元② 合唱コンクール 単元を貫くテーマ					
	いろいろな考え方の友達がいる中で、どうやって目標を達成すればいいのだろう					
		教科	教材名	内容項目	主題名	授業のねらい
	第1時	学級活動	合唱コンクールの目標を考えよう			合唱コンクールの目標に向かいどのような態度や考え方が大切になってくるのか考える。
	第2時	道徳科	11 門掃き	C - (12) 社会参画、公共の精神	しきたりに込められた思い	しきたりの中に込められた他者の思いを考えることで、自己と他者の考えの違いに気づく。
	第3時	道徳科	16 どうして?	C - (11) 公正・公平・社会正義	公平とは何か	本当の公平とはどんなことを指すのか、人それぞれ違う尺度があることに気づく。
	第4時	道徳科	19 バスと赤ちゃん	B - (6) 思いやり、感謝	社会の中での思いやり	多くの人々の優しさで社会がつくられていること、また自身も社会の一員であることに気づく。
	第5時	学級活動	合唱コンクールの中間振り返り			これまでの練習を振り返り、これからの練習の在り方考える。
	第6時	道徳科	5 さかなのなみだ	C - (11) 公正・公平・社会正義	いじめのない集団	いじめについて3つの立場の違いを考え、より良い集団の在り方考える。
	第7時	学級活動	合唱コンクールを終えて学びを振り返ろう			クラスの友人の頑張りを認め、これまでの取り組みを振り返る。

自己の将来と社会を見つめる	単元③ 職場体験学習 単元を貫くテーマ					
	職場体験をよりよい学びにするために、どんな準備をしたらいいだろうか					
		教科	教材名	内容項目	主題名	授業のねらい
	第1時	総合的な学習	職場体験に向けて学びマップを作ろう			職業観や勤労観について考えを深めるため、どのような学びが必要になるか自分たちで考える。
	第2時	学級活動	職業適性アンケート (PASカード)			自分の性格や特性を把握して、どんな仕事に就きたいか、考える。
	第3時	道徳科	33 私は清掃のPROになる	C - (13) 勤労	心がこもった仕事	勤労観が変容した主人公の物語を通じて、働くことの良さを考える。
	第4時	総合的な学習	どんな仕事があるのだろうか調べよう			世の中にはどんな仕事があるのか、多くの仕事がある中で、やってみたい仕事を探す。
	第5時	道徳科	34 「肝心」のパスガイド	C - (16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	ふるさとへの思い	先人や周りの人々への感謝の気持ちに気づき、自分には何ができるだろうかと思いを深める
	第6時	総合的な学習	将来に向けて人生マップを考えてみよう			これから先の人生マップをつくり、見通しをもったキャリア形成を計画する

3 研究の実際

(1) 学校行事とつながる単元計画（手立て1-①）

4月から6月までを単元①、9月から11月までを単元②、1月から2月までを単元③とし、行事と関連させながら、単元を計画した〔2（4）単元計画〕。

単元①は、年度初めに生徒の心を耕すことと、初めての大きな行事である体育祭にむかう、自分の努力の仕方を見つめることをねらって、内容項目の「A主として自分自身に関すること」を中心に単元を計画した。単元①の4時間の道徳授業を終えてから、学級活動の時間に、自己の3年間の目標を考える時間を作った。入学してからの2か月間で、体育祭・部活動の入部・定期テストと中学校の生活にも見通しをもちはじめ、各々が力を入れて頑張りたいことを考える時期であった。教材「葉っぱ切り絵で見た道」の振り返りで「体育祭の練習でも、自分ができることを生かして取り組みたい」という生徒の言葉から、道徳の授業とのつながりが感じられた。

単元②は、集団としての関わり方を構築することをねらって、内容項目「B主として人との関わりに関すること」や「C主として集団や社会との関わりに関すること」から道徳教材を選定し、社会生活や集団の中での過ごし方を学べる内容とした。その際に、10月末に行われる合唱コンクールと絡めて、単元を計画した。合唱コンクールのクラス目標を「最優秀賞を目指して練習する」と定め、それを達成するためには、どのようなことに気をつけて生活すればよいかという視点で「いろいろな考え方の友達がいる中で、どうやって目標達成すればいいのだろう」という、単元を貫くテーマを生徒たちと考えた。文化祭の振り返りでは、「人それぞれの考えを尊重して、みんなで協力することが大切だ」と考える様子があった。

単元③は、2年生で行う職場体験学習に向けて、総合的な学習の時間に、「どんなことを事前に学習したらいいだろうか」と生徒に問いかけ、生徒の意見を基に単元を計画した。Padletを活用して、生徒から出てきた意見を分類しながら話し合い、「働く意味」や「自分に合った職業は何か」を考えたいという意見が多くみられた。そのため、職業アンケートや職業調べを進めながら、道徳の授業で勤労観や職業観について考えを深める単元を計画した。

自分の将来に向けて視野を広げ、社会と関わりをもってほしいと願いをもって、「C主として集団や社会との関わりに関すること」から教材を選定し、社会生活や集団の中で自己の在り方を学べる内容とした。

(2) 振り返りシートの工夫と、振り返りを生かした導入の工夫（手立て1-②）

単元①では、道徳の学びを連動させるためのワークシートを作成した〔資料1〕。

生徒Aは、単元の初回の授業では「努力する」や「自分を信じる」などの言葉を抽象的に使用していたが、単元の最終授業では「自分には絶対得意なことがあるからそれを見つけるためにポジティブであること」や「自分にできないことがあると落ち込まず、やりたいことを見つける準備をしていきたい」と書いた。「自分の可能性を伸ばすためにはどうすればよいか」というテーマに対して、より具体的に自分にできることを見つめることができた。

3週間かけて行った授業であったが、授業の振り返りを1枚の振り返りシートにまとめて書いていくことで、時間がたっても学びが色褪せることなく生徒の思考が深まっていた。

Shine 一人ひとりが輝くための大きな目標

自分の可能性を伸ばすためにはどうすればいいだろう?

学びのほかに考えること
- 努力する
- 自分が得意なことをやる
- 自分を信じる

学びのほかに考えること
自分には絶対得意なことがあるからそれを見つけるためにポジティブであること
自分が得意なことをやる
自分を信じる

人々を支えるための大きな目標とは?

同じようなことをやるだけでなく、自分自身も頑張る
自分が得意なことをやる
自分を信じる

自分自身に関する目標

夢を達成するために、自分自身を鍛える
自分が得意なことをやる
自分を信じる

人との関わりに関する目標

夢を達成するために、自分自身を鍛える
自分が得意なことをやる
自分を信じる

社会や集団に関する目標

夢を達成するために、自分自身を鍛える
自分が得意なことをやる
自分を信じる

〔資料1〕生徒A 振り返り

また、生徒の振り返りに書かれた内容から、次の授業の導入の発問を考えて生徒に問いかける手立ても行った〔資料2〕。

教師：前回の「門掃き」の授業の振り返りの中で、Kさんは「その人に応じた行動が大事」と書いていて、Oさんは「相手を見て適切な行動をすることが大事」と書いてくれました。
みんな自分の振り返りを読んでみられる？
生徒：自分の振り返りをみる。
教師：「相手を見て行動をすること」について今日はもう少し考えたいんだけど…人によって違う行動をしてもいいのかな？
S1：うける人によって感じ方が違うからだめじゃない？
S2：理由をきちんと話せばいいのでは？
教師：場面が違うのかな？じゃあ今日は「本当の公平とは何か」について、もう少し考えてみよう。

〔資料2 授業記録〕

このように、前時の振り返りと本時の導入をつなぐことで、前時の学びを土台にしながら本時の学びをスタートすることができた。

（3）登場人物の心情にせまる話し合いの工夫（手立て2－①）

単元①教材「サッカーの漫画を描きたい」では、主人公の心情や物語を自分事として捉え、主体的に学習に取り組むために、一人の生徒が主人公になりきるロールプレイ（ホットシーティング）を行い、他の生徒からの質問に答えていくことで、「自分だったら」や「主人公だったら」と視点を切り替え対話する場面を設定した。登場人物になりきる生徒には、もし筆者だったらどう答えるかを自分なりに考えさせ、他の生徒からの質問に即興で答えるように指示をした。インタビューをする側の生徒たちは、筆者の深い思いを聞き出そうと、試行錯誤しながら質問をする様子があった〔資料3〕。インタビューする側の生徒たちは、登場人物になりきった生徒Bの返答をよく聞きながら、次の質問を考える取組によって、道徳教材の登場人物の心情を想像しながら、「自分ならどう考えるか」と思考する様子が見られた。学級全体で対話を楽しみながら、主体的

S1：漫画家デビューの前に漫画を描いてい
るときに気持ちを教えてください。
生徒B：プロの漫画家になりたい強い気持ちで
書いていました。
S2：サッカー漫画はヒットしないと言われ
た時に思ったことは何ですか？
生徒B：オリジナリティを出したいと思ってい
ました。だからサッカーにこだわりました。
S3：漫画家になれたけど、連載が打ち切り
になりそうな時どんなことを思いまし
たか？
生徒B：人気を上げたくて焦っていました。
S4：なぜ漫画を描きたいの？
生徒B：やりたいことの1番目が漫画を描くこ
とだからです。

〔資料3 授業記録〕

○自己評価
※達成できたこと、すべてに○をつける
①（○）初めて、学習課題にふれて考えた
②（○）登場人物と重ね、比較して考えた
③（○）これまでの自分の生き方にふれて考えた
④（○）これらの自分の生き方にふれて考えた
⑤（○）友達や先生の考えにふれて考えた
⑥（○）自分の考えなどの変化にふれて考えた
今日の経験の満足度 ☆☆☆☆

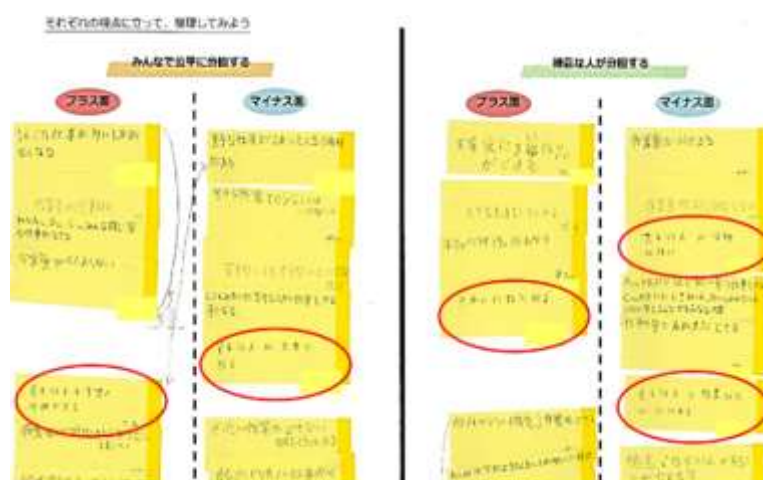
〔資料4 生徒Bの振り返り〕

に取り組む様子があった。この日の生徒Bの振り返りでは、「登場人物と重ね、比較して考えることができた」と回答していた〔資料4〕。

（4）自他の考えを比較するため、思考ツールの活用（手立て2－②）

立場によって意見が異なったり、見え方が変わったりする教材においては、思考ツールを活用しながら話し合い活動を行った。

教材「どうして？」の授業では、「本当の公平とは何か」という問いに対して「みんなで分担すること」と「得意な人が分担すること」のプラス面・マイナス面についてTチャートを活用し、小グループでの話し合い活動を行った。生徒Aは発言がほとんどない生徒であったが、付箋に意見を表出する様子があった〔資料5〕。

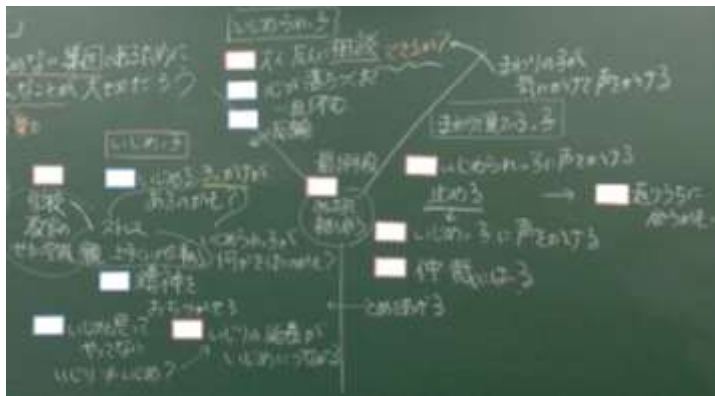


〔資料5 思考ツール〕

Tチャートを活用することで思考を整理することができた結果、授業のはじめには、「公平とは皆が同じことをする」と考えていた生徒が、「本当の公平とは、皆が納得できるような決め方をすることだ」と

改めて気付くことができた。

教材「さかなのなみだ」では、「いじめっ子」「いじめられっ子」「まわりで見ているっ子」と立場を分け、それぞれの立場で、「いじめのない集団であるために、どんな行動が大切か」を話し合った〔資料6〕。その際には、板書で Y チャートを活用して生徒が多角的な見方で考え、出された意見を分類しながら話し合うことができた。



〔資料6 Yチャートの板書〕

「いじめられっ子」の心に寄り添う「心が落ち着くまで休む」という意見だけでなく、「いじめっ子」側のもつストレスにも着目して心を寄せる発言があるなど、3つの立場の違いを視覚化したことで、相違点や関係性を考えて話し合うことができた。授業の振り返りには「全員の気持ちをしっかりと考えてから行動することが大切」という記述が見られた。

4 成果と今後の展開

(1) 仮説1について

手立て1-①では、学校行事と関連したテーマを設定して単元を計画したことで、生徒は道徳的事象を自分事として捉え、目的意識をもって学習に取り組むことができた。また、単元のテーマを意識させる発問を継続的に行うことで、既習内容と関連付けながら考えを深め、学びを重層的なものにすることができた。

手立て1-②では、単元全体の振り返りを1枚のシートにまとめて記録することで、生徒が前時とのつながりを意識しながら学習を進める様子が見られた。また、自身の考えの変容を振り返ることができ、道徳的価値への理解をより深めることにつながった。

これらのことから、学校行事とつながる単元設定と振り返りの工夫は、生徒の目的意識が高まり、道徳的事象を自分事として捉えることができ、道徳的価値の理解を深める上で有効であったと考えられる。

(2) 仮説2について

手立て2-①では、他者の意見を聞く活動を積極的に取り入れ、多面的・多角的な視点から自他の考えを見つめる機会を設けた。その結果、生徒同士が和やかな雰囲気の中で問いに向き合い、考えを深める姿が見られた。また、教師主導ではなく、生徒が登場人物の気持ちを理解しようと主体的に対話する様子が見られ、仲間と関わりながら学ぶ姿を引き出す上で有効な手立てであったと考える。

手立て2-②では、思考ツールを活用することで、考えを比較・分類しながら整理し、多面的・多角的に自他の考えを捉えることができた。また、普段は発言が少ない生徒も、思考ツールを用いて仲間と意見を共有する中で自分の考えを表出し、より深い考えを導き出そうとする姿が見られた。

これらのことから、登場人物の心情に迫る工夫と思考ツールの活用の手立ては、多様な価値観への理解を促し、仲間とともによりよく生きるための考えを深める上で有効であったと考えられる。

(3) 今後の課題

今後は、単元化した道徳授業をさらに充実させ、学校行事や日常生活との関連をより意識した指導を継続していきたい。また、多面的・多角的な思考を促す対話活動や思考ツールの活用を工夫し、すべての生徒が主体的に考え、自己の生き方について深く見つめることができる授業づくりを進めていく。さらに、生徒の考えの変容や成長を継続的に把握できる振り返りの方法についても改善を図り、より深い道徳的価値の理解へとつなげられる授業づくりを継続していきたい。